

令和2年度 二宮町青少年問題協議会 議事録

日 時：令和2年7月6日（月）14時より

場 所：二宮町役場 第1会議室

出席者：（委員） 村田邦子会長、森英夫副会長、梁井幸次委員、井上太郎委員、泰田幸紀代理、和田俊宏委員、和田智司委員、中島良光委員、小澤伸夫委員

（事務局） 黒石教育部長、小笠原生涯学習課長、小嶋生涯学習・スポーツ班長、須賀生涯学習・スポーツ班副主幹

傍聴者：7名

【資料】

- ・会議次第
- ・二宮町青少年問題協議会設置条例
- ・資料1 令和2年度二宮町青少年健全育成事業の取組みについて
- ・出会い系サイトは絶対ダメ!!
- ・STOP!自画撮り!
- ・薬物乱用は『ダメ。ゼッタイ。』
- ・かけはし
- ・夏休みの生活について
- ・夏休みを有意義に過ごそう
- ・一斉臨時休業期間の延長に係るお願い
- ・学校再開についてのお知らせ～分散登校が始まります～
- ・一斉登校が始まります
- ・夏季休業中の心得
- ・2020年度二宮町民生委員児童委員協議会 事業計画
- ・令和2年度 児童部会活動計画

1 開 会

2 委嘱状の交付

3 会長あいさつ

4 自己紹介

5 副委員長の選出

委員の互選により森英夫副会長を選出

6 議題

(1) 令和2年度 二宮町青少年健全育成事業の取組みについて

※事務局より資料1に基づいて説明。

- (会 長) 青少年環境浄化推進員の重点活動の表現について、現状に合っていないのでは。
- (委 員) 実際に、青少年にふさわしくない図書等の販売機等、今は設置していないので、現状に合わせて文章を変えてもよいのでは。
- (委 員) 夏季愛のパトロール運動の実施について、毎年、民生委員児童委員が協力していたが、今年は参加をしなくてよいのか。
- (事務局) 今年は、新型コロナ感染拡大防止のため、参加の要請をお願いしていない。

(2) 青少年非行の現状について

※泰田幸紀代理（大磯警察署生活安全課長）より、神奈川県下で起きている非行の状況について情報提供。

【要点】

- 刑法犯で、県内5月末現在の少年補導が551名（対前年比45名（7.6%減））で、少年の数は減少している。
- 背景に、今はスマホやゲームが普及していて、屋内に集まることが多く、補導の減につながっているのではないか。
- 非行の特徴として主に2つあげられる。一つ目は、「特殊詐欺（振り込め詐欺）」に加担しているケースである。50%が少年で、県内で今年は7人（対前年比21.1%増）で、その中には中学生もいる。二つ目は、「薬物乱用」の検挙が昨年比で32人増加していて、うち30人が大麻である。
- また、県内でおきている状況としては、「SNSの被害」と「児童虐待」である。「SNS」は、出会い系サイトにより自撮り画像を送付して拡散されてしまったなどの被害が報告されている。「児童虐待」については、件数が増えてきている。これは、虐待に対する目が以前に比べて厳しくなっていることにより、通告が増えているからである。虐待防止には、早期発見が大切。

(3) 情報交換

- (会 長) 今年は、コロナウイルス感染症の影響で子どもを取り巻く環境も例年にない変化があった。休校中及び再開後の子どもの状況や変化、また、夏休み中の生活指導、コロナ禍を受けた今後の学校についての方向性についても情報提供をいただきたい。

【要点】

※和田俊宏委員（二宮町立二宮小学校）

- 緊急宣言中、児童がエアガンやキックボードをしているということで、地域から2件の通報があり、マチコミメールで注意喚起をした。

○6月10日から登校を始め、1日おきで3時間授業、6月15日から給食、6月29日から一斉登校を開始した。

○児童の状況としては、疲れて休む子どもはいたが、コロナを心配しての休みはない。

○夏休みの生活については、健康管理、衛生面を重点に指導をする。

※和田智司委員（二宮町立二宮西中学校）

○5月20日にレターパックを使い、休業中の課題等を送付した。

○6月1日から4週間の分散登校を通じ段階的に教育活動を再開し、生徒の状況としては、元気に来れてる生徒もいれば、まだ馴染めない生徒もいる。

○8月1日から8月17日までが夏休みになるので、より一層、生徒たちを見ていく。

※中島良光委員（神奈川県立二宮高等学校）

○6月から、1週目は学年毎、2週目は学年で週2回、先週から一斉通学が始まり、本日から全学年1校時40分の6校時を開始した。

○休業中は、タブレットの充実により課題等の提出等や毎日の健康管理、体温の入力の依頼などを動画で実施した。

○生徒の様子は、臨時休業中の生活の乱れ、学校が始まっても学校に目が向かない生徒が見られる。

○8月7日から8月23日が夏休みになる。『夏季休業中の心得』として、今年から知的障害対応としてルビ付きのお知らせを作成した。また、生徒においては、地域からバスの中でマスクをはずしている生徒がいるとの苦情を受け、コロナ感染防止としてマスク着用や体温確認など、校長自らYouTube動画を作成し指導している。

※梁井幸次委員（二宮町地区長連絡協議会）

○百合が丘は少子高齢化が進んでいて、子どもの数や小学生自体遊ぶ数が少ない。

○長い目で見ていくことなのかもしれないが、親の教育次第で、世の中が変わってしまう。

※井上太郎委員（二宮町民生委員児童委員協議会）

○コロナによって、地域の見守りの活動ができず、ポストインや電話活動を考えているが、電話は高齢者にとって不審に思われ、なかなか出してもらえない。

○青少年に係わる民生委員児童委員の活動としては、下校時に子どもと一緒に帰る取組等の事業に参加することで、関係団体との連携をして、民生委員児童委員活動のPRをしている。

○民生委員児童委員は高齢化してきており、なり手が少ない。民生委員児童委員が誰にでもできるような側面の支援をお願いしたい。平均年齢をさげることが、活動の活性化につながる。

※小澤伸夫委員（二宮町青少年環境浄化推進員会）

- 10名3班体制で、「町内の巡回」と「声かけ運動」を行っている。
- 前半は、コロナ対応で活動できていなかったが、夏の愛のパトロールから見回る。何かが起こってからでは遅いので、青少年が集まる場所に行って一声かけていく。

※森英夫委員（二宮町教育委員会教育長）

- 学校が再開して登校が始まって、友達に会える喜び半面、集団に慣れない子どもの状況もある。
- コロナ禍の中、対面もオンラインもどちらも大切に思う。
- オンラインでできることは、やってもらいたい。

7 閉会 15時15分